

勝山市北谷町 - ため池跡・ミチノクフクジュソウ自生地 -



土手に咲くミチノクフクジュソウ



水草の豊かな池



池が陸地化してできた湿地

選 定 理 由

- ・県レッドデータブック掲載種（県RDB種）(ミチノクフクジュソウ)の県内の代表的な生育地である
- ・県RDB種が多種確認されている

県レッドデータブック掲載種数： 13種（面積約40ha）

自然の概要

畦や土手などの草地在ミチノクフクジュソウの県内唯一の生育地になっています。また、現在利用されていないため池が、浅くなって湿地状になり、ミズゴケ、ショウブなどの湿性植物や水生昆虫の生息・生育地となっています。

保全すべき主な環境

ため池とその周辺の湿地
草はら（ミチノクフクジュソウの生える畦や土手）
巨木林

自然保護関係法の指定

奥越高原県立自然公園（一部）

もっと詳しく知りたい人へ

福井県のすぐれた自然植物編,p73[北谷町のミチノクフクジュソウ群生地]

該当地の位置



里の生き物紹介 ミチノクフクジュソウ（キンポウゲ科）

ミチノクフクジュソウは、フクジュソウの一種で、早春に黄色い花を咲かせます。県内では、勝山市北谷町周辺にだけ自生地があります。

福寿草という名のとおり、おめでたい花として知られていることから、園芸目的の採集で数が減っています。また、土手や明るい林の下など、明るい場所に生えますが、草が茂りすぎて暗くなると育たなくなるため、生育している場所では定期的な草刈りや芝刈りが必要です。

保全すべき環境に生息・生育している生物



ミチノクフクジュソウ
県域絶滅危惧 類
落葉樹林の下や林縁に生育



ジュンサイ
県域準絶滅危惧
腐食栄養または貧～中栄養の湖沼やため池に生育



モウセンゴケ
要注目
日当たりの良い酸性湿地に生育



レンゲツツジ
山地の林縁地や草地に生育



ニホンリス
森林に生息し、枝のまたや樹洞に巣を作る

勝山市長尾山 - 里山・湿地 -



御立山から見た長尾山



長尾山と水田

選定理由

- ・県レッドデータブック掲載種（県RDB種）(サクラバハノキ)の県内の代表的な生育地である
- ・県RDB種が多種確認されている

県レッドデータブック掲載種数： 10種（面積約140ha）

自然の概要

なだらかな丘陵状の里山で、谷奥の湿地がサクラバハノキの代表的な生育地になっています。また、大径のアカマツが林立する尾根部には、オオタカやハチクマなどの猛禽類やニホンリスなどが生息しています。

保全すべき主な環境

巨木林（アカマツの大径木林）
湧水湿地（サクラバハノキの生育する湿地）

もっと詳しく知りたい人へ

福井県のすぐれた自然植物編, p83 [長尾山のサクラバハノキ群落]

該当地の位置



里の生き物紹介 サクラバハノキ(カバノキ科)

サクラバハノキは、湿地に生えるハノキの一種です。県内で知られている生育地はわずかで、本数も多くありません。土地の造成や道路工事のために、湿地が埋め立てられて、減少しています。

サクラバハノキはハノキにとってもよく似ています。ハノキは、ヤナギと共に、河川や放棄田など湿地によく見られます。サクラバハノキも同じような場所に生えますが、見つかるのはごくまれです。区別点は、ハノキより葉の光沢があり、葉脈の数が多いことですが、専門家でないと判別はむずかしいようです。

保全すべき環境に生息・生育している生物



オオタカ
県域絶滅危惧 類
緩やかな地形の森林、菅
巢林は緩斜面にある胸高
直径50cm以上の高木林



サクラバハノキ
県域絶滅危惧 類
山間部の河川・地沼の周
縁部、廃田、造成地など
の低湿地に生育



ハチクマ
県域絶滅危惧 類
落葉広葉樹林、アカマツ
林、スギ林に生息



サンコウチョウ
県域準絶滅危惧
大径木の社寺林、スギ林、
落葉広葉樹林に生息



ニホンリス
森林に生息し、枝のまた
や樹洞に巣を作る

勝山市平泉寺町 - 里山・ため池群・山ぎわの水田 -



山や森に囲まれた農地



斜面にある水田

選 定 理 由

・県レッドデータブック掲載種（県RDB種）が多種確認されている

県レッドデータブック掲載種数： 34種（面積約580ha）

自然の概要

平泉寺境内の社叢林をはじめ、周辺の森林にはスギや広葉樹の大木が多く、アオバズクや樹洞を利用するムササビなどが生息しています。また、ため池が多く、山に囲まれた水田とともに生物にとって良好な水辺環境となっているため、マルガタゲンゴロウやゲンゴロウなどの水生昆虫も生息しています。

保全すべき 主な環境

巨木林、雑木林、ため池、山田（山ぎわの水田および休耕田）

自然保護関係 法の指定

奥越高原県立自然公園（一部）、白山国立公園（一部）、平泉寺鳥獣保護区（一部）

もっと詳しく 知りたい人へ

福井県のすぐれた自然植物編,p80[平泉寺の社叢林] ぶくいの巨木,p26[平泉寺の菩提林（スギ林）]

該当地の位置



里の生き物紹介 アオバズク（フクロウ目フクロウ科）

全長30cm前後の中型のフクロウ類で、大きい樹木のある林、社寺林、公園、庭園などの木の樹洞に巣を作りますが、最近では、大木が少なくなり樹洞も減っています。

食べ物、主にセミ、甲虫、チョウ、ガなどの昆虫ですが、カエルや小鳥も食べます。

保全すべき環境に生息・生育している生物



アオバズク
県域絶滅危惧 類
大径木林などに夏鳥として渡来し、主に樹洞を利用して繁殖



ゲンゴロウ
県域準絶滅危惧
水生植物がある池や湿地・休耕田に生息



ジュンサイ
県域準絶滅危惧
腐食栄養または貧～中栄養の湖沼やため池に生育



マルガタゲンゴロウ
要注目
水質や環境の良好な溜め池などに生息



ムササビ
樹洞のある大径木林に生息

六呂師高原 - 湿地群・草地 -



妻平湿原



馬取池

選 定 理 由

・県レッドデータブック掲載種（県RDB種）が多種確認されている

県レッドデータブック掲載種数： 53種（面積約530ha）

自然の概要

池ヶ原湿原と妻平湿原には、モウセンゴケなどの湧水湿地性の植物が生育しています。また、馬取池や大池にはミズユキノシタやフトヒルムシロなどの水生植物が生育し、オオコオイムシやコオイムシ、マルガタゲンゴロウなど多様な水生昆虫の生息が確認されています。さらに、高原の所々にリンドウなど明るい草地を好む植物が生育しています。

保全すべき 主な環境

湧水湿地とその集水域、ため池および池、草はら（土手や畦など）、巨木林、雑木林

自然保護関係 法の指定

奥越高原県立自然公園（一部）、南六呂師鳥獣保護区（一部）

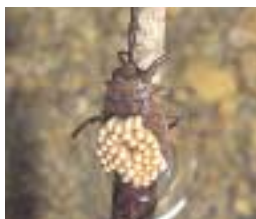
もっと詳しく 知りたい人へ

福井県のすぐれた自然動物編,p430[六呂師高原の止水環境]
福井県のすぐれた自然植物編,p74[六呂師高原の湿原],p75[神明山のアカマツ林]

該当地の位置



保全すべき環境に生息・生育している生物



コオイムシ
県域絶滅危惧 類
水生植物の繁茂した池や
休耕田、水田わきに生息



オオコオイムシ
県域準絶滅危惧
水生植物が繁茂した浅い
ため池、湿地、休耕田に
生息



マルガタゲンゴロウ
要注目
水質や環境の良好な溜め
池などに生息



モウセンゴケ
要注目
日当たりの良い酸性湿地
に生育



リンドウ
要注目
山野の日当たりの良い草
地に生育

大野盆地 - 湧水地・赤根川 -



本願清水イトヨ生息地



赤根川

選 定 理 由	<ul style="list-style-type: none"> ・県レッドデータブック掲載種(県RDB種)(陸封型イトヨ)の県内唯一の生息地である ・県RDB種(バイカモ、アカヒレタビラ)の県内の代表的な生息・生育地である ・県RDB種が多種確認されている
---------	--

県レッドデータブック掲載種数： 21種(面積約160ha)

自然の概要	市街地を中心に湧水地が点在し、特に本願清水(糸魚町)は陸封型イトヨの安定した生息地になっています。また、かつての湧水池ではアカヒレタビラが確認されている他、赤根川など湧水が流れ込む中小河川の所々に清流を好むバイカモ、ナガエミクリなどの水生植物が生育しています。
保全すべき主な環境	湧水地とその集水域、赤根川および小川(湧水の流れ込む排水路)
自然保護関係法の指定	国指定天然記念物(本願清水イトヨ生息地)
もっと詳しく知りたい人へ	福井県のすぐれた自然動物編,p157[大野盆地の陸封型イトヨ] みどりのデータ・バンク総括報告書,p68-69[大野市街地区]

該当地の位置



保全すべき環境に生息・生育している生物



陸封型イトヨ
県域絶滅危惧 類
湧水池とその流水路にすむ。水温15 前後の水の澄んだ砂泥底で、水草のある所を好む



アカヒレタビラ
県域絶滅危惧 類
河川の中流域から下流域、湖沼、産卵には二枚貝が必要



ヨシガモ
県域準絶滅危惧
水草の生える湖、池に生息



バイカモ
県域準絶滅危惧
湧水のある河川、水路、池に生育



ナガエミクリ
県域準絶滅危惧
湖沼、ため池、河川、水路、流水域に多い